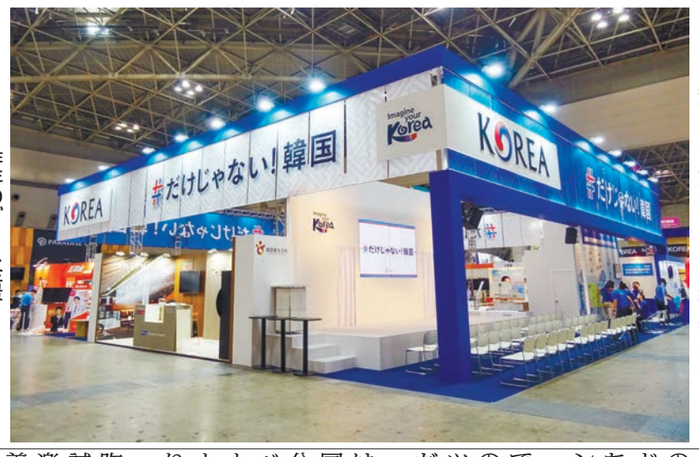
韓国再発見「#だけじゃない！韓国」PR

イメージ覆す「驚き」で訪韓を刺激

韓国観光公社（KTO）は、今回のツーリズムEXPOジャパンで、昨年に引き続き、韓国の魅力を再発見してもらう「#だけじゃない！韓国」をテーマにブース出展する。ブースの広さは、過去最大規模の63ブース（昨年58ブース）。韓国の最新のトレンドなど観光情報はもちろん、全国14の自治体による地方観光の紹介や文化体験コーナー、ステージイベントなど多彩なコンテンツを用意し、韓国ならではの魅力を紹介する。



昨年のブース全景

韓国では、今年2、3月に平昌オリンピック・パラリンピックが開催され、4、5月には北朝鮮との南北首脳会談が行われるなど平和、友好のムードはますます高まっている。また、2016～2018年の3カ年を「韓国訪問の年」として定め、日本をはじめ海外から韓国に訪れる人たちを心を込めて迎えている。

今回のブースは、ステージのほか、①自治体、②医療ウェルネス、③テーマ観光、④文化体験、⑤グルメ―の各ゾーン、免税店、航空会社ブースなどで構成される。

メインとなるステージでは、韓国自治体の広報タイムや韓国観光名誉広報大使による登壇などを予定。昨年は、食や美容、旅を紹介するトークショー、クイズイベントなどで盛り上がった。今年も要チェックだ。

自治体ゾーンでは、14の自治体が、最新トレンドの観光情報の紹介はもちろん、SNSでのイベントなどを用意する。

医療ウェルネスゾーンでは、肌診断やおすすめのヒーリング方法、美容ツボなどさまざまな体験ができる。

テーマ観光ゾーンでは、今注目されている韓国各地にある伝統市場や公演、スポーツ、国際イベント、異色体験、クルーズ、食べ物の七つのテーマで、韓国の魅力を掘り下げて紹介する。

文化体験ゾーンでは、昨年も大好評だった韓服試着体験コーナーなどで楽しめる。奇麗な韓服を着てSNSなどにアップして楽しみたい。

グルメゾーンでは、韓国農水産食品流通公社（atセンター）による韓国料理の調理実演や試食が実施され、韓国料理が味わえる。KTOでは観光PRの一つの切り口として、韓国料理を奥行きや美しさのほか、これまでの定番の魅力からさらに1歩進んだ「進化させた魅力」としてPRしている。

最新の観光を紹介（昨年の様子）

このほか、昨年に引き続き「#だけ韓」のSNS発信によるハッシュタグプレゼントキャンペーンも実施する予定だ。

「さまざまな国からの観光客へのおもてなしは日々進化している。食で例えると、屋台のB級グルメの『トッポッキ』をスタイリッシュなイタリアン風にするなど、文化を融合させ新たなソールフードを生み出し、観光客に提案している。ブースに訪れ、これまで知らなかった韓国の新たな観光を知ってほしい」とKTO担当者。

イベントステージ（イメージ）

昨年のKTOのブースは、平昌オリンピック・パラリンピック大会をモチーフにしたスキージャンプVR体験などが人気を集めた。来場者などがブースのデザインの独自性や演出、接客コンテンツ面の印象などの視点から投票する人気投票で「ブースグランプリ」に輝いている。

過去最大規模を誇るKTOブース。どんな再発見や体験ができるか、今から注目だ。

韓服試着体験（イメージ）

「韓国があなたに聞きます。こういうこと、やってみましたか？」

韓国観光公社（KTO）は、海外に向けた2018年の海外プロモーションとして「韓国があなたに聞きます。こういうこと、やってみましたか?」をコンセプトに、六つのターゲットタイプ別に旅行の好みに合った韓国観光コンテンツを発信している。

EXOのメンバーが韓国の観光の魅力を紹介

広告モデルとして、韓国で人気の8人組の男性アイドルグループ「EXO（エクソ）」を起用。EXOのメンバーが、①歴史&伝統②韓国人の日常生活③トレンド④冒険⑤ヒーリング⑥韓流―の六つのテーマで、観光やグルメなど韓国での特別な体験を伝える。

2018年海外プロモーション 六つの観光体験を紹介

韓国観光公社

申相龍・東京支社長に聞く

申相龍東京支社長

韓国観光公社（KTO）の申相龍（シン・サンヨン）東京支社長に、日韓交流の現状や今回のツーリズムEXPOでの見どころなどについてインタビューした。

―日韓双方向交流の現状について。

「昨年は訪日韓国人数が714万人と拡大し、訪韓日本人数は231万人と微増した。今年は訪日韓国人数が820万人、訪韓日本人数が280万から300万人ぐらいを予測している。ついに1千万人の交流が達成でき、意味深く感じている。今後さらに増やすには、訪韓日本人数を拡大し、双方の人数が均衡にならなければならない」

旅の多様化で需要が拡大 地方都市で食など体験を

―交流人口が拡大した要因は。

「海外旅行の料金が安くなったことが一番の要因だ。LCCが増えて飛行機代が安くなり、座席数も大きく増えた。為替レートも安定し、海外旅行への意欲を刺激している。また、北朝鮮とアメリカの対話、南北会談など平和ムードも広がっていることも、好転への影響を与えている」

―KTOの取り組みは。

「観光マーケットは、デスティネーションキャンペーンなどで3～5年ごとに上下する。訪韓では、2012年の352万人をピークに減少し、また、新しい観光素材を知った人たちが韓国を訪れ始めている。今の注目は、若者中心としたインスタ映えやかわいいもの、奇麗なものだ。SNS映えする素材などを女性、男性向けの雑誌などに紹介している。また、過去にドラマ『冬のソナタ』など韓流ファンだった世代が、K-POPを聞く子どもたちと、親子旅、一人旅で訪れている。まだ知られていない魅力あるコンテンツをもっとPRしていく」

―テーマ「#だけじゃない！韓国」とは。

「最近訪れていない、1回も訪れていない人にも韓国への固定したイメージがある。食、体験、地方観光など楽しめる場所はたくさんある。昨年から、韓国の再発見として『#だけじゃない！韓国』をテーマにPRしている。平昌五輪開催地である江原道を含め、韓国の地方都市でもいろんな魅力がある。EXPOの会場で韓国の魅力を再発見してほしい」

―いち押しの観光エリアは。

「今年は、韓国の南部を『全羅道訪問の年』としてPRしている。全羅道は食の都といわれ、人情あふれた町だ。食が韓国で一番おいしい町で食べ歩きなど楽しんでほしい。また、韓国の地方を日帰りで巡る『ご当地シャトル』の運行や『麺BOOK』などのガイドブックの発行などもしている。ぜひ参考にしてほしい」

KTOでは、さまざまなテーマのパンフレットを作成

―今回のブースの見どころは。

「過去最大の63ブースで参加する。14の自治体、免税店、ホテル、空港など一緒に、テーマ性のある最新観光情報の紹介や楽しい体験プログラムを用意する。会場を訪れた人たちが、実際に行ってみたいという気持ちにできるように準備する」

ツーリズムEXPOジャパン2018開催 祝福メッセージ

観光の可能性を世界に発信

全国旅行業協会会長　二階　俊博

日本観光振興協会、日本旅行業協会および日本政府観光局の主催による世界最大級の旅の祭典である「ツーリズムEXPOジャパン2018」が開催されますことに心からお祝い申し上げます。

さて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、観光は国の成長戦略の柱として、また、地方創生の原動力として大きく期待されており、地域の資源を生かした観光振興がますます重要になっております。このような大きなビジネスチャンスに対応して、本年も海外旅行・国内観光需要喚起と海外からの訪日旅行の誘致に向けた旅行・観光の総合イベントとして「ツーリズムEXPOジャパン2018」が開催されることになりました。関係の皆さまのご尽力に心より敬意を表します。

観光の発展は、人と人との交流が原点です。当協会では、本年2月に高知県において「第13回国内観光活性化フォーラムinこうち」を開催するなど、地域の観光資源を生かした旅行業の発展と交流、促進に向けたさまざまな取り組みを展開しております。

また、国際観光においても、アジアをはじめさまざまな国・地域との双方向の交流を大切にして、平和産業である観光が一翼を担い、民間レベルの交流が盛んに行われることによって国同士のさらなる発展につなげることができるものと確信しております。そして、ツーリズムEXPOジャパン2018が、世界に向けて日本とアジアの観光の大きな可能性を発信することを期待しております。

最後に、ツーリズムEXPOジャパンが、さらなる日本の観光産業の躍進、観光立国の推進に大きく寄与されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

魅力発信、需要の喚起を

観光庁長官　田端　浩

世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2018」と、国内最大のインバウンド商談会「VISIT JAPANトラベル&MICEマート2018」が本年も開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

政府では、観光は真にわが国の成長戦略と地方創生の大きな柱であるとの認識の下、訪日外国人旅行者数2020年4千万人、2030年6千万人等の大きな目標を掲げ、精力的に取り組みを進めています。

こうした目標を確実に達成し、観光先進国を実現するため、観光基盤の拡充・強化を図るための恒久的な財源である「国際観光旅客税」を創設しました。この観光財源をストレスフリーで快適に旅行できる環境の整備、わが国の多様な魅力に関する情報の入手の容易化、地域固有の文化、自然等を活用した観光資源の整備等による地域での体験滞在の満足度向上に充て、高次元の観光施策を広く展開していくこととしています。

また、観光先進国の実現のためには、双方向の人的交流の拡大、いわゆるツーウェイツーリズムが重要となります。このため、特に出国者数が減少している20代の若者のアウトバウンドを促進するため、本年7月、「若者のアウトバウンド活性化に関する最終取りまとめ」を公表し、海外旅行には、現地での異文化経験や社会的活動などの「海外体験」をする機会としての価値があること、「海外体験」には「異文化コンピテンス」や課題の設定・解決などにねばり強く取り組む力を習得できるメリットがあること等を明らかにしつつ、より多くの若者が豊かな「海外体験」を得ることができるよう、官民を挙げて取り組むべき方針を示したところです。

さらに、わが国の観光消費額の多くを占める日本人の国内旅行を促進し、地域への経済効果を一層高めていく必要があります。政府が進めている取り組みのほとんどは、インバウンドのみならず、国内旅行の促進にも資するものであり、こうした取り組みを、国と地方、官と民が密接に連携していかなければなりません。

そのような観点からも、今年で5回目を迎える旅の祭典、「ツーリズムEXPOジャパン」は、内外の旅行関係者や一般消費者に向け、わが国や各国・地域の多様な魅力を発信し、インバウンド・アウトバウンドそれぞれの需要喚起に資する世界最大級のイベントとして、非常に意義深いものと考えております。本年も昨年以上の盛会となりますようご期待申し上げます。

B2Bイベントとして確立を

国連世界観光機関駐日事務所代表　本保　芳明

わが国の観光は、一昨年3月に閣僚会議決定された「明日の日本を支える観光ビジョン」で、観光立国から観光先進国へと、ステージが一つ上がりました。そして、2020年の訪日外国人客数4千万人という高い目標の背中も見えてきた感があります。

観光立国元年とされる03年から今日に至るまでの観光立国の力強い歩みは、まさに官民一体の取り組みの成果であり、世界のモデルになり得るものだと思っております。

中でも、「ツーリズムEXPOジャパン」は、日本政府観光局、日本観光振興協会および日本旅行業協会の三者が、それぞれに歴史を積み重ねてきたイベントを、大同団結して、より未来志向で大規模かつ総合的なB2C、B2Bイベントに仕立て上げ、世界に問うている点において、官民一体の取り組みの象徴的な事業といって差し支えありません。

そのツーリズムEXPOジャパンも、3年を1周期とすれば、今年は第2周目の2年度に当たり、主力3団体の主催者としての一体感も高まり、まさに、わが国観光界の総力を挙げた大イベントとなっております。

各般にわたるプログラムの充実にも目覚ましいものがあり、特に主眼とするB2Bの取り組み強化は注目に値し、いよいよ世界的イベントへと進化していくことが期待されています。このイベントの成功は、アジア全体の観光の活性化につながるものとして、私どもUNWTO（国連世界観光機関）も強い関心を抱き、同駐日事務所を中心に全面的にサポートしているところであります。

ツーリズムEXPOジャパンが、世界的な観光・旅行博として、今後ますます世界で重きをなし、日本の観光先進国に向けた歩みのけん引車となることを期待し、UNWTO本部と私どもの事務所が一体となって応援させていただくことをお約束して、ごあいさつとさせていただきます。

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー

グランプリはJ＆Jの村尾氏

村尾氏

藤城氏

佐々木氏

日本添乗サービス協会（TCSA、三橋滋子会長）は9月20日、ツーリズムEXPOジャパン会場で「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2018」の表彰式を開催する。グランプリ（国土交通大臣賞）にはJ&Jヒューマンソリューションズの村尾まき子氏が選ばれている。

TCSA主催

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤーは、旅の演出家として顧客満足を高めるために日々努力している優れたツアーコンダクター（添乗員）を表彰する制度。

グランプリの村尾氏は添乗歴13年、海外添乗約2千日のベテラン添乗員。アンケート評価は常にトップクラスで、旅程管理、ホスピタリティ、語学などの力もツアー客の期待を上回るレベル。「食」に対する知識も豊富。添乗業務のみならず後進の育成、職業の魅力付けにも大きく貢献している。

準グランプリ（観光庁長官賞）はトップ・スタッフの根岸有希子氏。昨年9月、学生ツアーのアメリカ添乗の最終日、オーランドで超大型ハリケーンに遭遇。外出禁止の避難生活を強いられる中で、航空便予約に尽力したほか、不安を感じる学生への健康状態やメンタル面でのケアも行った。

委員長賞はJ&Jヒューマンソリューションズの藤城美幸氏。添乗経験26年、総添乗日数4500日のベテラン添乗員で、派遣先旅行会社からも優秀添乗員として表彰された。ツアーコンダクターの魅力付け、社会的地位の向上に大きく寄与している。

会長賞はジャッツの佐々木笑氏。昨年9月のメキシコツアー中、大地震に遭った。得意のスペイン語を駆使し情報収集するなど優れた行動力によりツアーを無事に終え、ツアー客や派遣先旅行会社から感謝された。

優秀賞は粟屋潤（ジャッツ）、丹羽悦子（トップ・スタッフ）、齋藤文江（J&Jヒューマンソリューションズ）の3氏。奨励賞は遠藤健一（旅行綜研）、佐藤ありか（読売旅行）、工藤俊雄（ANAセールス）の3氏が受賞している。

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー表彰式は東京ビッグサイト東展示棟Bステージで開催する。時間は午後4時30分から6時まで。表彰式の後、受賞者によるパネルディスカッション「ベテラン添乗員が語る―より良い旅作りのために―」も実施する。

JAF ドライブ旅行を提案

ツーリズムEXPOブースで

女子旅動画イメージ

日本自動車連盟（JAF）のツーリズムEXPOジャパンブースには、若い女性の間で人気のYouTuber「あさぎーにょ」が登壇し、ドライブ旅行の楽しみ方を提案する。

クリエイティブアーティストとしても映像・楽曲制作、そして、モデル、タレント活動など多方面で活躍中のあさぎーにょによる女子旅連動企画は、ブース内に設けた大型モニターでドライブ旅の楽しみを、フォトジェニックなグルメ、場所、体験を盛り込んだ動画で紹介する。併せて、ステージトークショーも開催される。女子旅動画は、イベント終了後もあさぎーにょYouTubeアカウント上で公開される。

行ってみたい自治体の観光スポットを、投票で決めるコンテストも行う。1位になった観光スポットには後日、あさぎーにょが動画収録し、YouTubeで公開する。

あさぎーにょが教えるSNS映えするテクニックの紹介や、クルマに関連するフォトジェニックコーナーなども設置される。